

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3392700070		
法人名	株式会社フロンティアの介護		
事業所名	グループホーム里庄の憩		
所在地	岡山県浅口郡里庄町里見9144番地		
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 29 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様を「支援させていただいている」との謙虚な気持ちを持ち、ご利用者様に寄り添い、関わる時間をしっかり持ち、心身の安定に努めています。個々のご利用者様にあった役割やレクリエーションを行い、日々の生活が充実したものとなるように心掛けています。また季節感を感じていただきたいと月に1回は季節に合わせた行事を行っております。ご利用者様の日々の表情や様子、健康状態をご家族様に詳しく伝えるようにしています。社内研修を実施したり外部研修に参加し、スタッフのスキルを上げるようにしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 12 月 10 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者、家族、職員、「すべての人の笑顔」を目指し、毎日のケアに臨む様子は、穏やかで、ゆったりとした雰囲気へと繋がっていた。管理者は、家族との連携を大切に考え、何年も会っていない家族に、利用者の様子を丁寧に報告し、安心して頂けるように努めている。利用者には、その人の要介護度に合わせた、できることを見つけて、言葉掛けをし、生きがいのある毎日を過ごして頂けるようにしている。気候の良い日には、「庭先に行きましょう」と声を掛け、「ふるさと」歌集を手に、みんなで、「案山子」や「うさぎとかめ」等、なじみの歌を大きな声で、合唱している。外出も、季節を感じて頂けるように、花見や紅葉狩りに出かけ、利用者の満面の笑顔で楽しい時を過ごしている写真が、印象に残った。職員は、利用者と一緒に会話を楽しみながら食事をしたり、リハビリ体操の際に「イチニ、イチニ」と優しく誘導したり、穏やかに寄り添ったケアを行い、利用者の晴れやかな笑顔を引き出していた。利用者の要望を、職員は、毎日の生活の中でくみ取るようにし、管理者と共に、なるべく叶えていく体制作りを目指している。お互いがそれぞれ、思いやりを持ち、行動が出来ているからこそ、理念につながる”すべての人の笑顔”を見ることができているといえよう。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所に掲示し朝礼で唱和し、全員が理解共有できるように努めている。	理念は事務所に掲示している。理念にある「すべての人に笑顔」を目指して、利用者ファーストの介護を行っている。さらに、接遇5原則ルールも掲示していて、職員の接遇にも取り組んでいる。理念は毎日唱和しているので、職員に浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内活動(清掃など)は積極的に参加している。今年より秋祭りが再開し、神輿の訪問があり、喜ばれた。	町内会には加入していて、回覧板から地域の情報を得ている。年3回の地域清掃にも参加している。通学中の学生と会う機会があり、相手から挨拶をして頂けるくらい関係が良い。今年から秋祭りが再開され、天満神社の神輿が施設の前まで来た。また、冬には伊勢大神楽の訪問もあり、利用者は大いに喜んだ。	今以上に地域に施設をアピールしてみたいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域代表や民生委員にお越しいただいたり資料をお配りすることで、認知症の方への理解を得られるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方や町職員に参加して頂いて開催し、意見交換を行った上でサービスの向上に活かしている。	地域分館長、民生委員、健康福祉課、地域包括センターの方が参加している。入居者状況、職員の配置状況、事故・ヒヤリハットの報告、行事報告を行った。母体の法人が変わってからの会議はまだ1度しか開催されていないが、今後も対面式で実施していく予定である。	新しい法人に変わったので、様々な角度から意見を聴取してみたいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問題点、相談等について、その都度里庄町に助言、指導を頂き現場に反映させている。	窓口は管理者。里庄町の健康福祉課の方とのやり取りをしていて、わからないことがあれば何でも相談できる関係が築けている。必要な書類は直接持参することで、face to face の関係が継続されている。直近では事故報告の書類を持って行った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員会を定期的に開催し、勉強会を通じて正しい理解に努めている。原則、玄関は夜間早朝以外カギをかけない事を基本としている。現在、身体拘束は行っていない。	身体拘束と虐待防止委員会を同時に開催し、虐待にあたるかどうかを毎回確認している。直近の研修では、不適切ケアの改善について学びを深め、職員間で話し合いができた。フィードバックも行い、再確認もできた。日中は玄関の施錠やユニット間の扉の施錠はしていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止検討委員会」を3か月に一回開催している。また全スタッフを対象に「身体拘束・虐待防止」の研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加等により、研修報告等を通じて理解に努めている。また、社内勉強会でも権利擁護について正しい理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にご本人、ご家族に契約内容、重要事項について説明し同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、電話、メール、面会時にもご家族からの要望や、ご意見を聞くようにしている。要望等があった場合は、ユニット会議、リーダー会議で報告、さらに本人・家族とも改善策を話合っている。また、年に一度アンケートを実施している。	母体の法人が変わった際に、家族へは社長から丁寧に説明をした。面会は少人数短時間で、応接間か自分の居室で実施できている。毎月「里庄の憩たより」を発行している。利用者一人ひとりに合わせてコメントを書いたり写真を添付したりしているので、利用者の様子がリアルに伝わっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ユニット会議、各委員会の開催及び年1回の個人面談等で意見を聞く機会を設けている。意見箱での要望、提案事項はリーダー会議で検討し、業務や運営に反映している。	法人で個人評価を行い、管理者がチェックをしている。定期的にリーダー会議を開催して、職員や利用者の意見を吸い上げている。職員からは外出支援の要望が上がり、今後法人本部と相談する予定である。月2回朝食に、パン食を提案したら採用された。食事中には、職員同士の仲の良さが窺え、明るい雰囲気であった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の努力や目標達成状況等を年2回自己・管理者が評価し、面談により自己の評価と上司の評価とを照らし合わせ、意見交換しながらすり合わせをするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加した際は、報告書、勉強会を通じて現場に反映するようにしている。また、社内研修では毎月講師役となる職員が資料作りをする等し、スキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に参加し、同業者と交流を深め、情報交換・意見交換をしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面接を行い、ご本人の要望等を把握し、ご本人が要望、不安等を訴えやすいように担当者を決め、職員と一緒に解決する事を基本としている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に対しては、相談等について話し合いながら共に考え、できる限りの助言や支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ヒアリングを通じて、本人様、ご家族の要望等を把握し、介護支援専門員を中心にケア担当者とともに話し合い、必要な支援、助言を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様との会話の時間をできるだけ設け、日常生活の中で洗濯物たたみ等できる事を見出し、一緒に行うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回、入居者様の生活の様子等を写真と手紙、「風のたより」(季刊誌)でお知らせし、面会時には生活の様子を報告し、ご家族との話し合いを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会が行えるようになり、短時間ではあるが面会者と楽しく過ごせるように支援している。	コロナが5類へ移行してから、短時間少人数制での面会が可能となり、顔を合わせることで、お互いに満面の笑みを浮かべていた。月1回の訪問美容の方は介護の資格を持っているので、対応も親切丁寧である。子どもの頃に遊んでいた明王院に足を運んで、昔を思い出していた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が楽しく過ごせるようにテーブルの位置や配席等に配慮し、なるべくフロアにて過ごしていただけるような声掛けを心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退居者様には、退居後もお見舞い等に伺っており、その他についてはこちらから連絡するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にあセスメントを行い、本人様の希望などを聞いている。言葉でのコミュニケーションが困難な場合には、日頃の観察や担当者との話し合いで検討し、介護計画に反映させている。	入居時にフェイスシートにて生活歴や趣味を確認している。利用者の目線に立ち、「ゆっくりでいいよ」と優しく言葉掛けをして、寄り添っている様子が窺えた。また、TVが観たい利用者へは、さりげなく椅子を持ってくる気遣いが見られた。気づきノートを活用し、職員同士で情報が共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には必ず事前面談をし、入居前の生活環境や社会資源の利用状況の把握に努め、その情報を基にカンファレンスなどを行い、ユニット全体で情報の共有化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット会議、アセスメント、評価に基づき情報の共有化により介護計画において課題を明確にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは月1回行い、ケアカンファレンス等においてご家族の希望、本人様の希望を把握し検討の上、介護計画を作成している。	フェイスシート、HDS-R、ケアチェック表を参考に介護計画を作成している。本人や家族、担当職員からの意見や支援経過記録を参考にケアマネジャーを中心にプランを作成している。毎月モニタリングを実施して、評価結果を基に、次のプラン作成に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットにその日の様子を入力し、朝礼での発表等により職員間で情報の共有化に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助等可能な限り柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて関係各方面からの協力を頂きながら支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	3つの協力医療機関(うち1つは歯科)と連携し、月に1~2回の往診を行ってもらっている。	入居時にかかりつけ医は選べるが、ほとんどのの方が転医されている。24時間対応で安心さが増している。内科の協力医は、2つの病院があり、往診は月2回と月1回ずつある。他科受診は、以前は職員が対応していたが、10月からは訪問診療に変わり、職員の負担軽減に繋がった。歯科は必要に応じて、往診か受診の対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護職員の配置はないが、介護職員が利用者様の状況を把握し、協力医療機関との連携はできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関との連絡調整は密に行い、状態の把握に努め、早期退院の話合いも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の指針に基づき説明し、同意を頂いている。終末期と診断された場合は、ご家族と今後のケアについて話し合いを行い、ユニット全体で取り組んでいる。また、毎年確認を行っている。	看取りは可能でここ数年はなかった。入居時に「重度化及び看取りにおける対応にかかる指針」にて説明し、同意を得ている。終末期を迎えた際には、「終末期の医療についての事前調査書」や「当施設における医療体制の説明書」にサインを頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員に消防署における救急救命講習を受講させている。救急用フェイスシートを作成し、急変時に主治医や消防に的確に情報が伝達できるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災を想定した訓練を行う。年一回は消防署員の立ち合いの元、指導助言を頂いている。水害を想定した訓練では実際に入居者の方を2階へ上げる垂直避難も実施している。	年2回、昼夜想定で火災訓練を実施し、利用者と一緒に水消火器を使った訓練ができた。消防の査察では、倉庫の積み荷や勝手口の鍵締めの指摘があり、改善に向けて取り組んでいる。防災マップと連絡網は事務所に置いてあり、備蓄は、食料品と水を1週間分、2階の倉庫に保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「尊敬」を基本とし、その方に合せた声掛けを行っている。個別対応を心掛け援助している。	呼称は苗字に「さん」付けだが、反応がいい場合には、下の名前で「さん」付けで呼ぶ場合もある。法令順守や権利擁護などの接遇研修をしている。事務所に「我々の接遇5原則ルール」を掲げ、挨拶、態度、表情、身だしなみ、言葉遣いの確認を毎日唱和し、浸透させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を最大限尊重し、一人一人の生活リズムを大切にしながら本人の思いに沿ったケアを支援できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	社内勉強会等で、常々職員側の都合を優先しないよう指導している。本人の意思を尊重し、自己のペースで暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に応じて、月1回専門職に来てもらい散髪を行っている。その日着る服や朝の洗面、入浴後の整容等本人の意向を大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のできる事を見出し、その月の誕生者の好みのもや、行事に応じた献立を取り入れる等しながら食事の楽しみが増えるようにしている。食事介助が必要な方が増え、食事は別々に摂っている。	食事は、10月からは食材が届き、手作りで提供している。炊き込みご飯が好評で、職員も同じメニューを、利用者と一緒に楽しく会話しながら食している。誕生日や、クリスマスにはケーキを提供し、敬老会にはお弁当を外注して、いつもとは違う形式の食事を楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事を提供し水分量もチェックしながら栄養や水分が確保できるように支援している。食事・水分の摂取量の記録、体重測定も行っている。本人の状態に合ったトミ剤等使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、介助しながら口腔内を観察している。義歯は毎食後洗浄し、1～2日毎に洗浄剤を使用している。口腔ケア用品は週1回薬液に浸し洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーを考えながら、本人の意思を取り入れた声掛けをトイレ誘導を行っている。その方にあった排泄の状態をユニット会議で話し合い、本人様にとって良い排泄パターンの把握に努めている。	今年9月から、タブレット端末を導入して管理している。利用者のペースに合ったタイミングで言葉掛けをしているので、失敗が軽減された。排泄失敗時は、さりげなく言葉掛けをして誘導し、利用者のプライバシーや自尊心を傷つけないように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の記入とともに便秘につながらないように個々の排泄パターンの把握により毎日、同じ時間帯に排泄の声掛けを行っている。野菜中心の献立等を業者をお願いしたり、その方にあった水分補給をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を楽しんでいただいている。	週2回の提供で、1日に9人入って頂くことで、別日にゆとりの時間ができ、職員の負担軽減に繋がっている。入浴を嫌がる利用者はおらず、「気持ちがいい」と利用者は喜んでいる。季節湯として、ゆず湯や気分を変えるために入浴剤を使用することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中簡単な運動をしたり天気が良い日は外で日光浴をしたり、生活リズムを整え、夜間安眠につながるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬明細を個人ファイルに綴じ込み、薬に関する情報を共有し、主治医の指示のもと服薬管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合わせたレクリエーションや役割を考えて支援している。原則、お酒やたばこは禁止だが、コーヒーや日替わりでのおやつを楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設行事に外出ができるよう心掛けている。天気のいい日には、外気浴を行ったり散歩へ出かけるようにしている。	春には花見、秋には近くのお寺へ紅葉狩りに出掛け、利用者の満面の笑顔が写真に残っており、良い気分転換となっている。新春お茶会、鏡開き、七夕祭り、ハロウィンの各季節の行事も実施している。箱根八里の半次郎体操やラジオ体操を毎朝の日課としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ感染の影響や、職員の人数の問題、利用者の状態等から買い物に対応することがとても難しくなっている。単発的に来られる訪問販売などを利用してお金を使うことの楽しみの機会を作っていたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、手紙や電話を使用される時はプライバシーに配慮しながら職員が支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアーには季節感を取り入れた花を飾ったり、小物を置いたりしている。温度調節も配慮している。加湿や消毒などで感染症予防を行っている。共用の空間が雑然とならないよう、整理整頓に心掛けている。	天窓から明るい光が差し込みリビングで、利用者は脳トレ、数字パズルや塗り絵をしてゆったりと過ごしていた。箱根八里の半次郎体操やラジオ体操を毎朝の日課として元気良さが裏付けられている。壁面は、季節に応じた飾り付けで彩られていて、嚙下体操時に使う、「いろはに」の表も大きく貼られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	横になって休みたい時は居室で寛がれ、フロアーは居間兼食堂となっており、自由に過ごせるように音楽やテレビを流している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット・タンスは備え付けとなっているが、本人が使いやすいように配慮し、カレンダー、写真などを飾り希望により自宅より馴染みのものを持って頂くなどして居心地のいい居室づくりを心掛けている。	備え付けは、介護度に応じた電動ベッド、エアコン、カーテン、照明、タンス。加湿器は、家族に用意して頂いている。各ユニットに1組、夫婦でも使える、ドアの仕切りを設けている居室がある。家族の写真や好きな歌手のポスター、誕生日の際に職員からプレゼントされたお祝いのカードが大切に飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室入口には手作りの表札が掲げられ、分かり易いようにしている。できる事を最大限発揮していただけるよう、個々に合った室内の配置や、福祉用具の検討を家族に相談しながら行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
		○	3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3392700070		
法人名	株式会社フロンティアの介護		
事業所名	グループホーム里庄の憩		
所在地	岡山県浅口郡里庄町里見9144番地		
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 29 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様を「支援させていただいている」との謙虚な気持ちを持ち、ご利用者様に寄り添い、関わる時間をしっかり持ち、心身の安定に努めています。個々のご利用者様にあった役割やレクリエーションを行い、日々の生活が充実したものとなるように心掛けています。また季節感を感じていただきたいと月に1回は季節に合わせた行事を行っております。ご利用者様の日々の表情や様子、健康状態をご家族様に詳しく伝えるようにしています。社内研修を実施したり外部研修に参加し、スタッフのスキルを上げるようにしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 12 月 10 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者、家族、職員、「すべての人の笑顔」を目指し、毎日のケアに臨む様子は、穏やかで、ゆったりとした雰囲気へと繋がっていた。管理者は、家族との連携を大切に考え、何年も会っていない家族に、利用者の様子を丁寧に報告し、安心して頂けるように努めている。利用者には、その人の要介護度に合わせた、できることを見つけて、言葉掛けをし、生きがいのある毎日を過ごして頂けるようにしている。気候の良い日には、「庭先に行きましょう」と声を掛け、「ふるさと」歌集を手に、みんなで、「案山子」や「うさぎとかめ」等、なじみの歌を大きな声で、合唱している。外出も、季節を感じて頂けるように、花見や紅葉狩りに出かけ、利用者の満面の笑顔で楽しい時を過ごしている写真が、印象に残った。職員は、利用者と一緒に会話を楽しみながら食事をしたり、リハビリ体操の際に「イチニ、イチニ」と優しく誘導したり、穏やかに寄り添ったケアを行い、利用者の晴れやかな笑顔を引き出していた。利用者の要望を、職員は、毎日の生活の中でくみ取るようにし、管理者と共に、なるべく叶えていく体制作りを目指している。お互いがそれぞれ、思いやりを持ち、行動が出来ているからこそ、理念につながる”すべての人の笑顔”を見ることができているといえよう。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所に掲示し朝礼で唱和し、全員が理解共有できるように努めている。	理念は事務所に掲示している。理念にある「すべての人に笑顔」を目指して、利用者ファーストの介護を行っている。さらに、接遇5原則ルールも掲示していて、職員の接遇にも取り組んでいる。理念は毎日唱和しているので、職員に浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内活動(清掃など)は積極的に参加している。今年より秋祭りが再開し、神輿の訪問があり、喜ばれた。	町内会には加入していて、回覧板から地域の情報を得ている。年3回の地域清掃にも参加している。通学中の学生と会う機会があり、相手から挨拶をして頂けるくらい関係が良い。今年から秋祭りが再開され、天満神社の神輿が施設の前まで来た。また、冬には伊勢大神楽の訪問もあり、利用者は大いに喜んだ。	今以上に地域に施設をアピールしてみたいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域代表や民生委員にお越しいただいたり資料をお配りすることで、認知症の方への理解を得られるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方や町職員に参加して頂いて開催し、意見交換を行った上でサービスの向上に活かしている。	地域分館長、民生委員、健康福祉課、地域包括センターの方が参加している。入居者状況、職員の配置状況、事故・ヒヤリハットの報告、行事報告を行った。母体の法人が変わってからの会議はまだ1度しか開催されていないが、今後も対面式で実施していく予定である。	新しい法人に変わったので、様々な角度から意見を聴取してみたいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	問題点、相談等について、その都度里庄町に助言、指導を頂き現場に反映させている。	窓口は管理者。里庄町の健康福祉課の方とのやり取りをしていて、わからないことがあれば何でも相談できる関係が築けている。必要な書類は直接持参することで、face to face の関係が継続されている。直近では事故報告の書類を持って行った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員会を定期的に開催し、勉強会を通じて正しい理解に努めている。原則、玄関は夜間早朝以外カギをかけない事を基本としている。現在、身体拘束は行っていない。	身体拘束と虐待防止委員会を同時に開催し、虐待にあたるかどうかを毎回確認している。直近の研修では、不適切ケアの改善について学びを深め、職員間で話し合いができた。フィードバックも行い、再確認もできた。日中は玄関の施錠やユニット間の扉の施錠はしていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止検討委員会」を3か月に一回開催している。また全スタッフを対象に「身体拘束・虐待防止」の研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加等により、研修報告等を通じて理解に努めている。また、社内勉強会でも権利擁護について正しい理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にご本人、ご家族に契約内容、重要事項について説明し同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、電話、メール、面会時にもご家族からの要望や、ご意見を聞くようにしている。要望等があった場合は、ユニット会議、リーダー会議で報告、さらに本人・家族とも改善策を話合っている。また、年に一度アンケートを実施している。	母体の法人が変わった際に、家族へは社長から丁寧に説明をした。面会は少人数短時間で、応接間か自分の居室で実施できている。毎月「里庄の憩たより」を発行している。利用者一人ひとりに合わせてコメントを書いたり写真を添付したりしているので、利用者の様子がリアルに伝わっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ユニット会議、各委員会の開催及び年1回の個人面談等で意見を聞く機会を設けている。意見箱での要望、提案事項はリーダー会議で検討し、業務や運営に反映している。	法人で個人評価を行い、管理者がチェックをしている。定期的にリーダー会議を開催して、職員や利用者の意見を吸い上げている。職員からは外出支援の要望が上がり、今後法人本部と相談する予定である。月2回朝食に、パン食を提案したら採用された。食事中には、職員同士の仲の良さが窺え、明るい雰囲気であった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の努力や目標達成状況等を年2回自己・管理者が評価し、面談により自己の評価と上司の評価とを照らし合わせ、意見交換しながらすり合わせをするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加した際は、報告書、勉強会を通じて現場に反映するようにしている。また、社内研修では毎月講師役となる職員が資料作りをする等し、スキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に参加し、同業者と交流を深め、情報交換・意見交換をしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面接を行い、ご本人の要望等を把握し、ご本人が要望、不安等を訴えやすいように担当者を決め、職員と一緒に解決する事を基本としている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に対しては、相談等について話し合いながら共に考え、できる限りの助言や支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ヒアリングを通じて、本人様、ご家族の要望等を把握し、介護支援専門員を中心にケア担当者とともに話し合い、必要な支援、助言を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様との会話の時間をできるだけ設け、日常生活の中で洗濯物たたみ等できる事を見出し、一緒に行うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回、入居者様の生活の様子等を写真と手紙、「風のたより」(季刊誌)でお知らせし、面会時には生活の様子を報告し、ご家族との話し合いを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会が行えるようになり、短時間ではあるが面会者と楽しく過ごせるように支援している。	コロナが5類へ移行してから、短時間少人数制での面会が可能となり、顔を合わせることで、お互いに満面の笑みを浮かべていた。月1回の訪問美容の方は介護の資格を持っているので、対応も親切丁寧である。子どもの頃に遊んでいた明王院に足を運んで、昔を思い出していた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が楽しく過ごせるようにテーブルの位置や配席等に配慮し、なるべくフロアにて過ごしていただけるような声掛けを心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退居者様には、退居後もお見舞い等に伺っており、その他についてはこちらから連絡するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にあセスメントを行い、本人様の希望などを聞いている。言葉でのコミュニケーションが困難な場合には、日頃の観察や担当者との話し合いで検討し、介護計画に反映させている。	入居時にフェイスシートにて生活歴や趣味を確認している。利用者の目線に立ち、「ゆっくりでいいよ」と優しく言葉掛けをして、寄り添っている様子が窺えた。また、TVが観たい利用者へは、さりげなく椅子を持ってくる気遣いが見られた。気づきノートを活用し、職員同士で情報が共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には必ず事前面談をし、入居前の生活環境や社会資源の利用状況の把握に努め、その情報を基にカンファレンスなどを行い、ユニット全体で情報の共有化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット会議、アセスメント、評価に基づき情報の共有化により介護計画において課題を明確にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは月1回行い、ケアカンファレンス等においてご家族の希望、本人様の希望を把握し検討の上、介護計画を作成している。	フェイスシート、HDS-R、ケアチェック表を参考に介護計画を作成している。本人や家族、担当職員からの意見や支援経過記録を参考にケアマネジャーを中心にプランを作成している。毎月モニタリングを実施して、評価結果を基に、次のプラン作成に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットにその日の様子を入力し、朝礼での発表等により職員間で情報の共有化に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助等可能な限り柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて関係各方面からの協力を頂きながら支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	3つの協力医療機関(うち1つは歯科)と連携し、月に1~2回の往診を行ってもらっている。	入居時にかかりつけ医は選べるが、ほとんどのの方が転医されている。24時間対応で安心さが増している。内科の協力医は、2つの病院があり、往診は月2回と月1回ずつある。他科受診は、以前は職員が対応していたが、10月からは訪問診療に変わり、職員の負担軽減に繋がった。歯科は必要に応じて、往診か受診の対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護職員の配置はないが、介護職員が利用者様の状況を把握し、協力医療機関との連携はできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関との連絡調整は密に行い、状態の把握に努め、早期退院の話合いも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の指針に基づき説明し、同意を頂いている。終末期と診断された場合は、ご家族と今後のケアについて話し合いを行い、ユニット全体で取り組んでいる。また、毎年確認を行っている。	看取りは可能でここ数年はなかった。入居時に「重度化及び看取りにおける対応にかかる指針」にて説明し、同意を得ている。終末期を迎えた際には、「終末期の医療についての事前調査書」や「当施設における医療体制の説明書」にサインを頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員に消防署における救急救命講習を受講させている。救急用フェイスシートを作成し、急変時に主治医や消防に的確に情報が伝達できるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災を想定した訓練を行う。年一回は消防署員の立ち合いの元、指導助言を頂いている。水害を想定した訓練では実際に入居者の方を2階へ上げる垂直避難も実施している。	年2回、昼夜想定で火災訓練を実施し、利用者と一緒に水消火器を使った訓練ができた。消防の査察では、倉庫の積み荷や勝手口の鍵締めの指摘があり、改善に向けて取り組んでいる。防災マップと連絡網は事務所に置いてあり、備蓄は、食料品と水を1週間分、2階の倉庫に保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「尊敬」を基本とし、その方に合せた声掛けを行っている。個別対応を心掛け援助している。	呼称は苗字に「さん」付けだが、反応がいい場合には、下の名前で「さん」付けで呼ぶ場合もある。法令順守や権利擁護などの接遇研修をしている。事務所に「我々の接遇5原則ルール」を掲げ、挨拶、態度、表情、身だしなみ、言葉遣いの確認を毎日唱和し、浸透させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を最大限尊重し、一人一人の生活リズムを大切にしながら本人の思いに沿ったケアを支援できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	社内勉強会等で、常々職員側の都合を優先しないよう指導している。本人の意思を尊重し、自己のペースで暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に応じて、月1回専門職に来てもらい散髪を行っている。その日着る服や朝の洗面、入浴後の整容等本人の意向を大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のできる事を見出し、その月の誕生者の好みのもや、行事に応じた献立を取り入れる等しながら食事の楽しみが増えるようにしている。食事介助が必要な方が増え、食事は別々に摂っている。	食事は、10月からは食材が届き、手作りで提供している。炊き込みご飯が好評で、職員も同じメニューを、利用者と一緒に楽しく会話しながら食している。誕生日や、クリスマスにはケーキを提供し、敬老会にはお弁当を外注して、いつもとは違う形式の食事を楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事を提供し水分量もチェックしながら栄養や水分が確保できるように支援している。食事・水分の摂取量の記録、体重測定も行っている。本人の状態に合ったトロミ剤等使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、介助しながら口腔内を観察している。義歯は毎食後洗浄し、1~2日毎に洗浄剤を使用している。口腔ケア用品は週1回薬液に浸し洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーを考えながら、本人の意思を取り入れた声掛けをトイレ誘導を行っている。その方にあつた排泄の状態をユニット会議で話し合い、本人様にとって良い排泄パターンの把握に努めている。	今年9月から、タブレット端末を導入して管理している。利用者のペースに合ったタイミングで言葉掛けをしているので、失敗が軽減された。排泄失敗時は、さりげなく言葉掛けをして誘導し、利用者のプライバシーや自尊心を傷つけないように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の記入とともに便秘につながらないように個々の排泄パターンの把握により毎日、同じ時間帯に排泄の声掛けを行っている。野菜中心の献立等を業者をお願いしたり、その方にあった水分補給をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴をして頂けるようにしているが勤務体制の都合で、本人様の希望通りの入浴が出来ないこともある。	週2回の提供で、1日に9人入って頂くことで、別日にゆとりの時間ができ、職員の負担軽減に繋がっている。入浴を嫌がる利用者はおらず、「気持ちがいい」と利用者は喜んでいる。季節湯として、ゆず湯や気分を変えるために入浴剤を使用することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中簡単な運動をしたり天気が良い日は外で日光浴をしたり、生活リズムを整え、夜間安眠につながるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬明細を個人ファイルに綴じ込み、薬に関する情報を共有し、主治医の指示のもと服薬管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や楽しみ事等を把握しているが、なかなか役割や気分転換の支援にまでは至っていない。原則、禁酒・禁煙としている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設行事に外出ができるよう心掛けている。天気の良い日には、外気浴を行ったり散歩へ出かけるようにしている。	春には花見、秋には近くのお寺へ紅葉狩りに出掛け、利用者の満面の笑顔が写真に残っており、良い気分転換となっている。新春お茶会、鏡開き、七夕祭り、ハロウィンの各季節の行事も実施している。箱根八里の半次郎体操やラジオ体操を毎朝の日課としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ感染の影響や、職員の人数の問題、利用者の状態等から買い物に対応することがとても難しくなっている。単発的に来られる訪問販売などを利用してお金を使うことの楽しみの機会を作っていたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、手紙や電話を使用される時はプライバシーに配慮しながら職員が支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアーには季節感を取り入れた花を飾ったり、小物を置いたりしている。温度調節も配慮している。加湿や消毒などで感染症予防を行っている。共用の空間が雑然とならないよう、整理整頓に心掛けている。	天窓から明るい光が差し込むリビングで、利用者は脳トレ、数字パズルや塗り絵をしてゆったりと過ごしていた。箱根八里の半次郎体操やラジオ体操を毎朝の日課として元気良さが裏付けられている。壁面は、季節に応じた飾り付けで彩られていて、嚙下体操時に使う、「いろはに」の表も大きく貼られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	横になって休みたい時は居室で寛がれ、フロアーは居間兼食堂となっており、自由に過ごせるように音楽やテレビを流している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット・タンスは備え付けとなっているが、本人が使いやすいように配慮し、カレンダー、写真などを飾り希望により自宅より馴染みのものを持って頂くなどして居心地のいい居室づくりを心掛けている。	備え付けは、介護度に応じた電動ベッド、エアコン、カーテン、照明、タンス。加湿器は、家族に用意して頂いている。各ユニットに1組、夫婦でも使える、ドアの仕切りを設けている居室がある。家族の写真や好きな歌手のポスター、誕生日の際に職員からプレゼントされたお祝いのカードが大切に飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室入口には手作りの表札が掲げられ、分かり易いようにしている。できる事を最大限発揮していただけるよう、個々に合った室内の配置や、福祉用具の検討を家族に相談しながら行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
		○	3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				